

「キリスト信者になるために」

(20.2.20 入門講座で配布)

1. 「入信式 (洗礼・堅信・聖体)」は、キリストの教えを聴き、聖霊に導かれて神を求め、信仰と回心の道を歩む人を対象としている。

「求道期と洗礼準備期」の典礼は、教会が昔から長い間実施してきたもので、あらゆる宣教地で現代への適応が求められている。

2. 入信式について

入信する人は、いくつかの段階を経てキリストに近づいて行く。この入信の歩みは、神の多様な恩恵、入信する人の側からの協力、教会の側からの働きかけ、時期や場所の状況によって異なるが、そこには共通する三つの段階に合わせて行う。入信する人は、この式によって信仰の道を振りかえって確かめ、共同体の中で公に信仰を表明し、さらに前進するために、教会の祈りに支えられ豊かな恵みを体験することが肝心である。

(一) 求道期前期

入門式によって始まり、それに先立つ求道期間は大切である。この時期に最初の福音宣教が行われる。

この時期に、まことの神と、すべての人の救いのために遣わされたイエス・キリストが宣べ伝えられる。この福音宣教によって、神の助けのもとに初期の信仰と回心を体験し、悪と闘い、神の愛の神秘に引かれるようになることが肝心である。(ローマ 10.8-13 参照)

(二) 求道期

次のような心構えが求められる。つまり、信仰と回心の芽生え、生活を改善する努力、神を求めて祈り、キリスト者との交わり、その信仰生活に触れることなど。

求道期は長い期間であって、その間次のような実践教育と生活指導を受ける。

教話担当者は、教話を段階的に、典礼暦年に合わせて行う。また、求道者は教理と掟についてだけでなく、ことばの祭儀などを通して、救いの神秘を深く味わうことが出来るよう配慮する。

求道者は、キリスト者の生活に親しむことによって神に祈ることが容易になり、信仰を証し、すべてにおいてキリストの期待に沿い、聖霊の勸

めに従い、自分を捨てて隣人を愛するように導かれる。

(三) 洗礼準備期—清めと照らしの時期—

四旬節の典礼と教話は、洗礼の準備と記念、および関心について行われ、過越し神秘にあずかる準備をする。

教話よりも霊的集中によっていっそう深い心の準備をする期間である。

(四) 入信の秘跡の祭儀

洗礼、堅信、聖体（エウカリスチア）の秘跡は入信の最終段階であり、洗礼志願者は、これによって罪の赦しを受け、神の民に加えられ、神の子となる恵みを受ける。また聖霊を注がれて、約束された救いの時の完成に導かれ、さらにミサにおいて、奉獻と食卓を共にして神の国の^{うたげ}宴に参加する。

(イ) 洗礼式において、「父と子と聖霊のみ名によって」水を額^{ひたい}に注ぐ。

受洗者は、悪霊を拒否し、信仰を宣言し、過越の神秘に対する信仰を力強く表す。

水を注ぐことは、キリストの死と復活の神秘に与ることを表し、信じる者は、キリストと共に罪に死んで永遠のいのちに生まれ変わる（ローマ 6.3-11 参照）。

(ロ) 続いて堅信式を受ける。それによって、キリストの死と復活、および聖霊降臨が、唯一の過越の神秘として切り離すことが出来ないことを体験する。

(ハ) 感謝の典礼（ミサ）については、別個に詳しく扱う。